

2018年度 学校評価報告書

2018年4月1日から
2019年3月31日まで

学校法人コリア国際学園

2018年度の本学園の教育活動を、「2018年度学校教育方針」に基づいて振り返り、校務分掌ごとに整理し、以下にその概要を報告する。

【2018年度の方向と方針】

2018年度はコリア国際学園(以下、KIS という)の開校10周年を迎える年である。KISはこの10年間、在日コリアンの民族教育から多様な文化的背景を重視する教育へ、言い換えるならば、画一的な価値観を追及する教育を否定し、個々のアイデンティティを尊重し、それらの共生を目指す教育を目指してきた。

その過程で学生数は徐々に増加し、卒業生たちは日本・コリア・アメリカ・イギリス・中国・ロシア・カナダ・タイ・インド・マレーシアなど世界中で活躍するようになった。また在日コリアン社会での認知度もある程度高くなった。

2017年度からは全教職員で数年間準備を進めてきた国際バカロレア(IB)の認可を受け、実際にIBの授業が始まった。またサッカー部の創設や中国からの留学生も増加傾向にある。

このような中で迎える2018年度の最重要課題は、現在のKISの教育活動が建学の精神と教育理念に基づいた教育活動になっているのかを再確認し、安定した教育環境を整えていくことである。このような観点から以下のように2018年度教育方針を定める。

1. KISの教育活動の充実

KISは特定非営利活動法人として出発し、現在は各種学校として独自の教育理念実現のための教育活動を展開している。そのため一般の高等学校にはない多様で豊かな学びがある反面、一般の高等学校の卒業資格はない。これはKISの教育活動のための現時点での選択である。このようなKISの教育活動に誇りを持って取り組んでいきたい。

2. IB教育の推進と他のIB校との連携

2018年度はコリア国際学園にとってIB元年と言える。十分なIB教育の提供、最終試験の合格、進路実現など初めてのことが2019年度まで続く。それらをしっかりと準備し、現状に応じて柔軟に対応していく必要がある。

現時点で大阪府唯一の日本語DP実施校として注目を集めている。他のIB校との交流や連携を深めつつ、リーダーシップを発揮していきたい。

3. 英語力の強化

KISの教育の特色である3言語の育成の中でも英語力の向上が重要な課題としてあげられる。現状では卒業時に十分な英語力を持つ学生は10%程度であり、それもKIS以外の生活環境の中で育成されたと考えられる場合が多い。コリア語は卒業時にTOPIK6級程度のコリア語力を目標としており、卒業時に韓国の大学にそのまま進学できる生徒が大半を占める。英語圏へそのまま進学できる程度の英語力を持つ学生を育成するための英語教育を目指す。

-01-

4. 中等部学生の基礎学力の定着

自ら問題を発見し、協調して解決方法を考え、それを実現して、共有する。これが、KISが目指す教育活動であり、IBでもこのような力の育成が目指される。しかし、そのためには一定の基礎学力と学習習慣が必要である。このような力を中等部、特に中1、中2で育成する必要がある。

5. 「自立」と「自律」

「自立」とは自らの将来への責任感であり、「自律」とはその実現のために思考や行動を律することである。学習と学級活動、その他教育活動において中1から高3までの発達段階に応じた「自立」と「自律」が達成できるようにする。

6. 10周年記念行事

2018年度はKISの10周年記念行事がいくつか実施される。10周年記念行事はKIS創立以降の10年を振り返るとともに、KISの存在と教育成果を内外に広く知らせる行事とする。

7. 学生募集

KISの教育成果を効果的にアピールし、それが学生募集につながる仕組みづくりをする。在日コリアン社会だけでなく、地域や海外での認知度を高める必要がある。また短期的な対策と中長期的な戦略をたて学生募集を実施する。

【教務部】

■ 方針・目標：

1. 「越境する人」「自主的な人」「共に生きる人」を学校教育のあらゆる場で実践するよう教務部として計画立案に参画し、実行しさらなる発展のある教育現場を目指す。
2. 課題探求・自学自習など主体的な行動、解決ができる能力を育て、考え抜く力、表現力等を育成する学習活動を充実させる。その為に、各教科授業の公開や各種研修を通して、教員の指導力向上をはかる。また、英語力強化の為に教材研究、指導方法を確立させる。
3. 中等部のきめ細やかな学習指導による基礎学力の伸長・向上を目指し、学習習慣の定着をはかる。
4. IB教育活動と連携し、授業を公開し学生募集活動につなげる。
5. 学校文書の整理作成と保管、管理業務の徹底を図り、IT化を更にすすめる。

■ 事業の内容：

1. 授業運営

- ・授業の質の向上を目指すため、授業計画（進度表、シラバス）を作成し、計画的な授業を行い、また学期ごとに点検・確認する。
- ・研究授業や相互授業参観を通し、また授業評価アンケートを行うことにより日常的な授業展開に対する点検、評価、指導を行う。
- ・中学担任会と協調し、朝学習等の取り組みを計画する。
- ・英語力強化の為に会議を継続的に持ち、各種試験結果の分析や、授業内容及び指導方法の点検を行う。

- ・授業の質向上のための外部研修などへの参加を積極的にすすめる。
- ・落ち着いて学べる授業の雰囲気づくりのため、環境整備をはかる。

2. 学籍管理

- ・出席簿の記入方法の簡略化をはかり、出欠の管理を徹底する。また、現在の「遅刻届票」を「遅刻カード票」に改訂し、遅刻者の時刻等を明確にし、活用出来るようにする。
- ・出席統計管理システム(IT化)で、各学年・個人における週・月・学期・年統計を作成・分析し生徒指導にいかす。
- ・学籍簿のIT化をすすめ(2年目。3年で完成。)、学籍状況の正確な把握と管理を行う。

3. 成績管理

- ・成績処理システムの一般化をはかり、三者面談等への活用を目指す。

4. 校務文書の整理とファイル化

- ・校務書類を整理し、公文書番号に基づいた一覧表を作成し、各書類の保管、管理の効率化を図り、仕事内容を明確化する。

5. 教務規定集の作成等：

- ・現教務規定に基づいて、改善し「教務規定集」を作成する。

■総括

1. 授業運営

- ・「進捗表(実数)」結果と「法定時数」の比較分析予定。

2. 学籍管理

- ・まだ、出席簿の未記入がみられる。
- ・「施賞台帳」「資格取得台帳」を作成。毎年、記録していく必要がある。3学期、中1,2は出席率、遅刻率ともに目標をクリア出来た。学生支援部の活動が実を結んだといえる。高等部の場合、2学期より改善されたが昨年度より、少し悪くなった。

3. 成績管理

- ・成績管理システムの作業を、年間を通じて、担任中心に行うことが出来た。今後、成績データの分析力を高める必要がある。

4. 試験運営

- ・「見なし出席」の採用により、スムーズに行われた。
- ・欠試者の成績処理方法も「欠」処理に変えて、処理しやすくなった。

5. 教務分掌と規定等：

- ・校務分掌を整理し文書分類表、教務規定の原案が完成。

■今後の課題予定

- ・授業の充実と公開（研究授業）による、教員の指導力の充実。
- ・法定時数の採用により、欠席の多い学生に「警告注意書」を早く出す必要がある。
その為には、各教科 → 担任 → 教務 の連絡が必要である。

【 学生支援部 】

■目標

1. 建学の精神、教育理念にそって自主的で創造的な学校生活、集団生活、自治活動を展開できるように支援する。
2. 個人と集団に対する尊重心に基づく秩序の確立を目指す。
3. 学生の愛校心を高める。

■2018 年度学生会活動方針

- スローガン：『We Love KIS』
- 方針：～開校 10 周年、これからの KIS のために～
 - ・いい学校環境作り
 - ・委員会・部活動活性化
 - ・地域との交流
 - ・団結力の向上

■内容

1. 学生会・学級委員活動

- ①全校生が参加する学生会活動を目指す。
- ②学生会役員の責任感と実務能力を高める。
- ③学生会と学級委員が協力して学生会活動・学級委員活動を展開できるようにする。
- ④英語力の強化のために、三言語使用に努める。
- ⑤学力向上や平和を目的とした企画を実施する。

2. 生活指導

- ①コリア国際学園の学生として学校生活における自ら学ぶ学習態度、互いに理解し協力する生活態度、規則・秩序・社会常識を自ら守る校風を確立する。
- ②問題解決的生活指導は問題行動によって担任⇒生活指導担当⇒学生支援部⇒校長・教頭で対応する。
- ③担任と学生支援部の連携を強化する。
- ④中等部担任部と協力し、中等部学生の基礎学力定着のための機会を提供する。
- ⑤制服・頭髪などの規定を全教員が正確に把握し、全教員が学生に対して平等に指導ができるように、規定内容について広く伝達する。

3. クラブ活動

- ①学生が自主的に選択し、活動する場としてクラブ活動への参加を積極的に奨励する。
- ②練習試合、大会、コンクール、発表会などに積極的に参加し、クラブ活動の成果を發揮する場を設ける。
- ③存続危機のクラブを活性化させるために、部活体験月間等のイベントを企画し実施する。

4. ESD パスポートを活用した活動

- ①ESD パスポートを活用したボランティア活動を推進する。
- ②ESD パスポート活動報告会（12月24日）に進行役・報告員として参加する。

■成果、総括

1. 実施した事業

1) 学生会・学級委員会活動

- ①学生会役員会議の実施（毎週木曜日放課後）
- ②学級委員会会議の実施（隔週月曜日ランチタイム）
- ③全体朝会の実施（1月15日・2月4日）
- ④委員会委員長会議の実施
- ⑤委員会会議の実施
- ⑥文化祭企画運営
- ⑦リクエストボックスの設置（12月～）
- ⑧多民族フェスティバルへの参加（11月10日）@小野原公園
- ⑨多文化フェスティバルの開催（8月25日）
- ⑩学生会遠足実施（12月20日）@明治なるほどファクトリー大阪
- ⑪ESD活動報告会への参加（12月24日）@大阪YMCA
- ⑫成人式参加（学生会長お祝いの言葉）
- ⑬卒業式祝賀公演企画運営
- ⑭Attendance Improvement Project 実施
- ⑮パジョンパーティー（2月22日放課後）
- ⑯3.1節100周年学習会実施（3月1日5-6時間目）
- ⑰Post-it-note Tree for Peace 作成（3月1日～）
- ⑱やよい祭展示参加（3月3日～4日）
- ⑲3学期学生会遠足実施@NPO法人京都コリアン生活センターエルファ
- ⑳KIS Lunch Movie Theater（2月1日～2月20日）

2) 生活指導

担任と協力し、ルールを守るように声掛けや指導を行った。

3) クラブ活動

テコンドー部（毎週水曜日）、伝統芸術部（基本的に火曜日）が主に活動した。

4) ESD パスポートを活用した活動

①ESD パスポート活動報告会（12月24日）@大阪YMCA

②2018年度大阪における「ユネスコ協会 ESD パスポート」の取り組み冊子
（原稿作成）

5)地域との連携事業

①豊川ネット事務局会議への参加

②「多文化フェスティバル」実行委員会発足・企画

③箕面市国際交流協会主催「多民族フェスティバル」実行委員会会議への参加

■今後の課題

1. 建学の精神、教育理念に関連した活動の強化⇒南北首脳会談や3.1節100周年学習会を実施はしたが、学生にどれだけ伝えることができたかが不明＋学生自体の興味関心の低下、それをどう引き上げるかが課題。

2. 生活指導について

①ルール違反者に対しての指導がしっかりとできていない⇒担任と学生支援部の連携強化。非常勤の先生に対してもルールを伝え、指導の協力をお願いする。

②ルール（頭髪、服装、お菓子など）の再検討の必要性

・クラブ活動の活性化⇒既存のクラブ以外に、ユネスコ部、料理部創設計画中。

・委員会活動の活性化⇒委員会活動は各年の学生会役員の活動方針に依っていたが、図書委員会、美化委員会などは学級委員会と共に常設を計画中。

【 進路指導部 】

■目標

1. 学生の進路保障の観点から、高卒認定試験に頼らない進路実現を目指す。

2. 社会に出た後の自分の役割を意識させる進路指導を行う。

3. 出願等の手続きにおいて、学生の自立を促す指導を行う。

■事業内容

1. について

・指定校推薦の枠および、高卒認定の資格がなくても受験可能な大学を増やすべく、今まで関係のあった学校をはじめ、今春卒業生の進学校、在校生が進学を希望する大学などに根気よく足を運ぶ。

・AO入試やセンター入試においても、高卒認定による受験資格ではなく、本校の学校としての受験資格を認めてもらえるよう、学生が受験を希望する各大学と交渉する。

2. について

- ・「仕事」とは何か、考えさせる。
- ・職業紹介や自分の適性を知る機会を設ける。
- ・関心のある職業について調べ、更に、その職業に就くにはどのような手順が必要なのかを知る機会を設ける。
- ・科目選択は、入試の受験科目と関わりが大きいので、高1、高2の段階から職業、およびそれにつながる進路を意識させる指導を行う。

3. について

- ・各種手続きにおいて、ペースメーカーの役割までは行うが、学生自身で行える手続きに関しては、本人が行うよう指導する。
- ・進路にかかわらず、書類等の提出期限を厳守する習慣が身に付くよう指導する。
- ・外部模試の案内は行うが、本校での受験は取りやめる。(学生の進路希望は多様であり、模擬試験受験を必要としない者もいる。また、公開会場で受験した方が、本番の雰囲気になんとも慣れるのに役立つ。)

4. その他

- ・現高2生からIBのカリキュラムが行われており、IB資格を利用して進学できる大学の情報を集める。

■総括

1. 年間の成果

◎校長・教頭による大学訪問

- ・新たにK I Sを学校として認定してくれた大学
立命館大学、関西大学、京都外国語大学、大阪国際大学、大阪経済法科大学
- ・新たに指定校推薦をくれた大学
京都外国語大学、大阪経済法科大学
- ・新たに個別審査に応じてくれた大学
近畿大学、大阪学院大学 関西学院大学
大阪医科大学、慶應義塾大学(S F C)、羽衣国際大学

◎キャリア探求プログラムの実施

- ・高1対象に、9月より月1回(2コマ)の実施。
- ・10月には高1～高3を対象に、「コミュニケーション力を高める」をテーマに専門の講師による講演会を実施。
- ・12月には中1～高3を対象に、「職業別ガイダンス」を実施。

◎9期生の進路実績

○指定校推薦

- ・京都外国語大学(外国語学部・英米語学科、日本語学科、国際貢献学部・グローバル観光学科)

○AO入試

- ・立命館アジア太平洋大学(国際経営学部)

○公募推薦

- ・大手前大学(国際看護学部)

○一般入試

- ・大阪経済大学(人間科学部)
- ・京都造形芸術大学(芸術学部)
- ・京都外国語大学(外国語学部・フランス語学科)
- ・関西外国語大学(外国語学部・英米語学科)
- ・龍谷大学(国際学部)(センター併用)

○専門学校

- ・ホスピタリティー ツーリズム専門学校大阪(鉄道サービス科)
- ・ル・トア東亜美容専門学校
- ・NICインターナショナルカレッジ
- ・辻調理師専門学校

■今後の課題

- ・大学側の募集定員遵守に伴い、私立大学は難化傾向にある。
今までは「関関同立」クラスを受験していた者が「産近甲龍」を、「産近甲龍」を受験していた者が「摂神追桃」クラスを受験する動きが大きくなっているようである。この現状を学生に理解させた上で、受験先を決定する必要がある。
- ・AOや推薦入試で思わしい結果が出なかった場合を考え、一般入試の準備を早い段階でさせておく必要がある(学習面はもちろん、出願資格の個別審査についても)。
- ・募集要項の内容を、正しく読み取ることができない学生が少なくない。事務文章を読みこなす指導が必要であろう。
- ・学校の定期考査と入試は、根本的に異なっている事に気づいていない学生もいるように感じた。入試に対する正しい意識づけが必要である。
- ・現高1生から、センター入試の内容が大きく変わる。それに伴い、私大入試がどう変わっていくのか、注意しておく必要がある。
- ・「キャリア探求」は、学生の視野を広げる良い機会になったと考える。来年度も実施してはどうだろうか。

【 広報部 】

■方向と目標

生徒募集対象名簿が年ごとに先細り、広報物郵送で得られる広報効果が落ちてきている危機的な状況を認識する。OS・SS・文化祭などイベント参加者が入学に繋がる

よう、イベントの内容を充実させ参加者を増やす。外部説明会・WEB 広告などを活用し資料請求数を増やす方法を工夫する。中学生が私立離れしている現状から中等部募集はますます厳しくなっている。6年間一貫課程だけではなく高等部課程の案内を充実させる。進学実績・IB 教育など魅力・メリットをアピールして、高等部受験者確保に力を入れる。

■総括、課題

1. 10周年記念行事

- ・開校から10年間を振り返り、KISの存在と教育成果を内外に広報する目的をもって11月17日に10周年記念シンポジウムを開催した。第一部講演「若者パワーを未来に向けて」、第二部卒業生と在校生によるパネルディスカッションは全体として良い反響であった。年明け1月には卒業生同窓会が設立された。
- ・学生数減少の中、KISの教育成果を効果的にアピールし学生募集につながる仕組みづくりを目指して、在日コリアン社会だけでなく地域や海外での認知度を高める必要性が拡大する状況で、短期的な対策と中長期的な戦略をたて学生募集を推進した。

2. 生徒募集

- ・昨年よりオープンスクール、サマースクールの参加者は増えたがまだ学校の知名度が低いことを実感している。今後ターゲットを絞って広報すること、継続的に広報することに力を入れたい。
- ・韓国留学生募集のためにゲウン中学校、個別相談会などを実施したが、目に見える成果は得られなかった。韓国の留学希望者の大体は個人で調べるより留学院に行って相談を受けるため、SNS 広報だけでは人集めに限界があると感じた。今年の夏・秋に大阪で発生した地震、台風の被害による旅行者の激減に伴い留学計画を見直した人も少なくないとみられる。今後、定期的に説明会を開催すること、韓国留学院との契約&留学院での説明会開催、留学博覧会ブース参加など、より積極的な留学生募集活動が必要だと感じた。国内でも成果をすぐ可視化することはできないが、継続的に他地域での説明会を開催し、帰国生のための学校説明会にも継続参加する予定である。
- ・外部広告に関しては長期的視点で広告効果を上げるための工夫が必要だと感じた。知名度を上げるためには短期間の小さな広告を多数掲載するより、多少予算がかかるとしても JR 茨木駅、コリアタウンなどターゲットをしぼり、継続的に同じ場所へ広告を掲載する必要がある。